

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1871700272		
法人名	医療法人社団茜会		
事業所名	あかねの里 2階		
所在地	福井県坂井市丸岡町羽崎31-11-3		
自己評価作成日	令和 3年 11月 17日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	令和3年12月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の残っている能力を楽しみながら出していけるよう、家事作業、レクリエーション、菜園、外出などに取り組み一人一人にあった生活が出来るよう支援している。
ご家族の希望があれば看取りケアを行っている。併設病院があり、日中、夜間を通じて緊急時に対応できる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、母体法人である医療機関や介護老人保健施設、通所リハビリテーション、介護付き有料老人ホームを併設した建物の2・3階にある。周囲には商業施設や食品スーパー等があり、利便性に富む一方で、神社や公園等もあり、ゆったりと穏やかに過ごせる地域である。「ゆっくり・いっしょに・たのしく・ゆたかに」の理念に沿い、各職員が、利用者のプライバシー保護や尊厳に配慮した対応を心がけている。居室からベランダに出ることができ、プランターで花や野菜を育てることもできる。広い畳スペースに仏壇を設置しており、利用者が落ち着いた雰囲気の中で過ごせるよう工夫している。併設している医療機関の外来看護師が事業所に勤務しており、受診時にはスムーズな情報提供・情報共有ができる環境を整えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に理念を掲示している。毎日の申し送りの後にも職員で唱和し実践に繋がられる様にしている。	法人理念・行動指針を毎日の朝礼で共有し、実践に繋げることができるよう努めている。また、職員が個々に目標を立て、年2回の管理者による評価を受けながら日々のケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウィルス感染予防のため、地域との交流は控えている。現在は県内の感染者もほとんどない為、スーパーへの買い物や、人が密集していない所への外出をはじめた。	地域ボランティアに参加したり、併設している医療機関内の一角を活用してサロンを開催したりする等、意欲的に地域とのつながりを持っていたが、コロナ禍のため現在は交流の機会がほとんどない。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウィルス感染予防のため、サロンや中学生の職場体験、ボランティア受け入れは行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は行っていないが、2ヶ月ごとに運営推進委員の方へ書面で運営状況を報告している。	コロナ禍のため運営推進会議は開催していないが、各構成員に定期的に広報誌を届けるとともに、2か月ごとに運営状況等を書面で報告している。	運営状況報告とともに各構成員が意見を記入しやすい書面等を送り、得た意見を今後のサービス向上に反映する取組みに期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	坂井市と坂井地区広域連合の職員には運営推進委員をしていただいている。2ヶ月ごとに運営状況を報告しており、普段から何か困ったことがあれば相談している。	定期的に運営状況等の報告を行うとともに、必要時にはメールや電話でのやり取りを行い、協力関係の構築を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	面会制限を行っているため、玄関は施錠しているが、身体拘束を行っている入居者はいない。月1回法人の身体拘束予防委員会へ参加し、自分たちが対応が適正か確認している。	法人内に身体拘束委員会を設置しており、定期的に内部・外部研修を行い、身体拘束の理解に取り組んでいる。また、言葉による拘束等にも注意を払い、日々のケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人に虐待防止委員会があり職員1名参加している。皮下出血など発見した時は記録に残し共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している入居者が2人いる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項や疑問に思っていることを説明し、入居してからその都度対応している。契約書は一度持ち帰っていただき、家族がしっかりと読める時間を設けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護計画作成前や、家族来所時には利用者の状況を報告し、意見を聞くようになっている。苦情相談窓口の掲示もしている。	広報紙やお便りを活用し、利用者の現状を報告する時や介護計画の作成時に家族の意見を確認している。また、請求書を毎月手渡しする際に意見や要望を聞く機会を設けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	提案はその都度受け付けし、毎週のミーティングや月例会議で話し合っている。	年2回の面談時やフロアミーティング・月例会議にて職員の意見や提案を聞く機会を設けている。職員ごとの書類BOXがあり、メモ等で気兼ねなく意見や提案を伝えられる工夫をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回勤務状況をふまえ、成績評価を行っている。面談も行い、良かった点や、改善点を伝えやりがいを持つよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の必修研修は受けられるように対応している。研修の案内を出し、受講したい物があれば勤務調整し対応している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウィルス感染予防のため、訪問や交流は難しいが、グループホーム協会の研修や全国大会へ参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に情報収集を行い、不安なことや要望に耳を傾け、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前、当日には聞きたいことがないか、困っている事がないか確認し、ケアプラン作成時や面会の際に要望を聞くなどし家族と相談している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族と面談、担当ケアマネージャーへの情報収集を行い必要な支援を提供している。必要なサービスがあれば対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々のペースに合わせ、一緒に家事作業や野菜作り、レクリエーションを楽しみながら関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に日々の様子を伝えたり、2ヶ月に1回各担当職員がおたよりを作成し家族へ渡している。他病院への受診は家族に付き添いしていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人からの手紙や電話をいつでも受け付けており、オンライン面会ができる事も案内している。	オンライン面会を実施するほか、適切な距離を保ちながら事業所の玄関部にて面会ができる。地元の理美容店の訪問サービスを活用し、馴染みの関係が途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握、共有し必要な時は職員が間に入り、利用者同士が支え合えるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	運営推進会議に参加していただいたとき、関係性を保っている。退居後も相談の連絡があれば対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活歴やご家族からの情報を聞いている。3ヶ月に1回アセスメントを行いサービス内容の検討をしている。	入居時や介護計画作成時に家族から情報収集を行うとともに、日々の会話や表情等から希望や意向を推測・把握して本人本位の支援が提供できるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話の中で聞き出したり、家族の面会時に聞いている。以前に担当していたケアマネージャーやサービス担当者から情報提供をお願いしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	変化があった時には申し送り、カルテに記録している。少しでも気になったことがあれば看護師に相談し対応している。3ヶ月に1回理学療法士とアセスメントを行い心身の状態を確認している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要に応じて、理学療法士や管理栄養士など他職種に意見を聞き介護計画の作成をしている。本人や家族には意見や要望を聞いている。カンファレンスに本人が参加し意見を聞く。	毎日のショートカンファレンスで職員間の情報共有を図っている。モニタリングは毎月行い、3か月ごとのケア会議にて計画を見直している。必要に応じて随時介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	月1回ショートカンファレンスを行い、ケアプランの見直しを行っている。見直したことは記録し職員同士共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限りニーズに対応出来るように努めている。ミーティングで話し合い柔軟に支援できるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	併設施設の職員に情報提供し、安全に外出できるよう支援している。売店への付き添いなど本人が楽しみが持てるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望するかかりつけ医に受診している。症状に合わせて適切な医療が受けられるよう対応している。	利用者が併設の医療機関を受診する時は職員が同行し、家族に受診結果を伝えている。併設の医療機関の外来看護師が兼務で事業所に勤務しており、スムーズに情報共有ができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回は看護師に報告、相談している。少しでも気になることがあれば、その都度看護師に相談し指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院職員へ本人の情報を伝えている。入院後も連絡を取り合い情報交換し、早期に退院できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に看取りの方針を説明している。重度化した場合は本人、家族に事業所でできる事を説明している。看取りを希望されれば、併設の病院と連携し対応している。	入居時に重度化や終末期(看取り)の事業所方針を説明している。重度化した場合には随時話し合いの場を設け、家族の意向を確認している。看取りを希望した場合には医療機関と連携して対応する体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを掲示している。法人内の医療安全委員会に参加し、応急救護の勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を行っている。防災マニュアルを作成し、地域の区長や消防団と連絡がとれるようにしている。	年2回、法人全体で消防署の立会いのもと日中・夜間の火災を想定した避難訓練、水害を想定した避難訓練を実施している。非常時には区長や消防団と連携が取れる体制を構築している。地区の災害避難場所の指定を受けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	申し送り等利用者の事を話す時には名前を出さず部屋番号を使用し、プライバシーに配慮している。否定的な言葉は使わないようにし、言葉遣いが気になる時には声職員同士声を掛け合う。	内部・外部研修にてプライバシーの確保や尊厳に対する理解を深めている。職員間で利用者の情報共有を図る際は、居室番号を利用する等の工夫をしている。不適切な言葉遣いは職員同士で注意しあっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるよう声のかけ方など工夫し一人一人の性格を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や就寝時間、食事の時間など一人一人のペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品など希望があった場合はご家族にお伝えし持って来て頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に食べたい物がないか聞き献立にいれたりし、一緒に作っている。盛り付けや片付けも利用者と一緒にしている。毎月の月初めは誕生日会、毎週水曜日はホットプレートなど使い、目の前で調理し利用者が楽しめるような献立にしている。	毎週水曜日には「お楽しみ昼食会」を開催し、お好み焼やデザートバイキング等で利用者が食事を楽しめる工夫をしている。事業所の畑で採れた野菜を使うこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月体重測定し、食事の量や献立など管理栄養士に相談している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	磨き残しがある方は介助に入ったり、声かけしながら歯磨きしている。状態に合わせスポンジブラシや舌苔ブラシ使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の残存機能を活かした支援を行っている。個別にトイレに行く声掛けを行っている。	排泄状況や間隔を把握し、各利用者に合わせて排泄誘導を行っている。散歩等で身体を動かし、水分や乳製品・フルーツを摂取することで自然な排便ができるよう工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	あまりお茶を飲まない方には、少し甘くしたお茶ゼリーを提供したり、水分を多くとれよう工夫している。チューブ体操やラジオ体操、散歩など運動する機会を作っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決めておらず、入浴を断られた時には別の日に入浴していただいている。	入浴は週2回が基本だが、利用者の希望に合わせて曜日・時間を変更することができる。現在、機械浴の設備はないが、今後リフト浴を含め検討していく。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に合わせて、休息していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人薬剤情報をカルテにファイルしている。定期の診察には職員が付き添い、内服の変更があった場合は必ず申し送りしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	売店があるため、希望日や定期的買い物に行っている。家事作業は得意なことができるように声かけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナウイルス感染予防のため、近くの神社や施設周辺の散歩は行っていたが、普段行けないような所には行っていない。	コロナ禍以前のような外出は行っていないが、天気の良い日には神社や事業所周辺を散歩する他、敷地内の畑まで出かけるようにしている。また、併設の医療機関にある売店にも行けるよう支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の理解を得て、お金を所持している方もいる。お小遣い帳を使い本人と確認している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい方はその都度対応している。友人から手紙送りたいと連絡があり対応した。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月利用者が貼り絵を製作し、食堂に貼っている。昼食前には皆で一緒に季節の歌を歌っている。家に咲いていた花を飾る職員もいる。	共用空間には大きな窓があり、明るく快適な空間となっている。広い畳コーナーには、容易に昇り降りができる階段と仏壇を設置している。貼り絵や写真を飾り、穏やかな雰囲気の中で日常生活を送ることができるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の相性など考え、食堂の席を工夫している。廊下には椅子やソファを置きいつでも休めるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室では使い慣れた物を持ってきていただくよう家族にも声かけている。家族の写真や、好きな物を持参して頂いている。	利用者が自宅で使用していた物品を持ち込む事ができる。家族の写真や作品を飾り、利用者が居心地の良く過ごせるよう工夫している。居室前には表札があり、利用者が自分の居室を認識しやすくしている。希望すれば畳を敷くことも可能である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、浴室などには手すりが設置されている廊下の距離があるため途中で休めるように椅子を置いている。居室には表札を掲示し自分の居室がわかるようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1871700272		
法人名	医療法人社団茜会		
事業所名	あかねの里 3階		
所在地	福井県坂井市丸岡町羽崎31-11-3		
自己評価作成日	令和 3年 11月 17日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	令和3年12月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の残っている能力を楽しみながら出していけるよう、家事作業、レクリエーション、菜園、外出などに取り組み一人一人にあった生活が出来るよう支援している。 ご家族の希望があれば看取りケアを行っている。併設病院があり、日中、夜間を通じて緊急時に対応できる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2階ユニットと同じ

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に理念を掲示している。毎日の申し送りの後にも職員で唱和し実践に繋がられる様になっている。	2階ユニットと同じ	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウィルス感染予防のため、地域との交流は控えている。現在は県内の感染者もほとんどない為、スーパーへの買い物や、人が密集していない所への外出をはじめた。	2階ユニットと同じ	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウィルス感染予防のため、サロンや中学生の職場体験、ボランティア受け入れは行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は行っていないが、2ヶ月ごとに運営推進委員の方へ書面で運営状況を報告している。	2階ユニットと同じ	2階ユニットと同じ
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	坂井市と坂井地区広域連合の職員には運営推進委員をしていただいている。2ヶ月ごとに運営状況を報告しており、普段から何か困ったことがあれば相談している。	2階ユニットと同じ	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	面会制限を行っているため、玄関は施錠しているが、身体拘束を行っている入居者はいない。月1回法人の身体拘束予防委員会へ参加し、自分たちが対応が適正か確認している。	2階ユニットと同じ	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人に虐待防止委員会があり職員1名参加している。皮下出血など発見した時は記録に残し共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している入居者がいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項や疑問に思っていることを説明し、入居してからその都度対応している。契約書は一度持ち帰っていただき、家族がしっかりと読める時間を設けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護計画作成前や、家族来所時には利用者の状況を報告し、意見を聞くようにしている。苦情相談窓口の掲示もしている。	2階ユニットと同じ	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	提案はその都度受け付けし、毎週のミーティングや月例会議で話し合っている。	2階ユニットと同じ	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回勤務状況をふまえ、成績評価を行っている。面談も行き、良かった点や、改善点を伝えやりがいが持てるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の必修研修は受けられるように対応している。研修の案内を出し、受講したい物があれば勤務調整し対応している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウィルス感染予防のため、訪問や交流は難しいが、グループホーム協会の研修や全国大会へ参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に情報収集を行い、不安なことや要望に耳を傾け、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前、当日には聞きたいことがないか、困っている事がないか確認し、ケアプラン作成時や面会の際に要望を聞くなどし家族と相談している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族と面談、担当ケアマネージャーや他職種に情報収集を行い必要な支援を提供している。必要なサービスがあれば対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々のペースに合わせ、一緒に家事作業や野菜作り、レクリエーションを楽しみながら関係を築いている。本人ができる事をすすめ残存機能を活かしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に日々の様子を伝えたり、2ヶ月に1回各担当職員がおたよりを作成し家族へ渡している。他病院への受診は家族に付き添いしていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人からの手紙や電話をいつでも受け付けており、オンライン面会ができる事も案内している。	2階ユニットと同じ	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握、共有し必要な時は職員が間に入り、利用者同士が支え合えるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	運営推進会議に参加していただいたとき、関係性を保っている。退居後も相談の連絡があれば対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活歴やご家族からの情報を聞いている。3ヶ月に1回アセスメントを行いサービス内容の検討をしている。	2階ユニットと同じ	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話の中で聞き出したり、家族の面会時に聞いている。以前に担当していたケアマネージャーやサービス担当者から情報提供をお願いしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	変化があった時には申し送り、カルテに記録している。少しでも気になったことがあれば看護師に相談し対応している。3ヶ月に1回理学療法士とアセスメントを行い心身の状態を確認している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要に応じて、理学療法士や管理栄養士など他職種に意見を聞き介護計画の作成をしている。本人や家族には意見や要望を聞いている。カンファレンスに本人が参加し意見を聞く。	2階ユニットと同じ	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	月1回ショートカンファレンスを行い、ケアプランの見直しを行っている。見直したことは記録し職員同士共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態やご家族の状態を面会時に聞き、その都度入居者に適したサービス提供出来るよう対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	併設施設の職員に情報提供し、安全に外出できるよう支援している。売店への付き添いなど本人が楽しみが持てるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望するかかりつけ医に受診している。症状に合わせて適切な医療が受けられるよう対応している。	2階ユニットと同じ	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回は看護師に報告、相談している。少しでも気になることがあれば、その都度看護師に相談し指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院職員へ本人の情報を伝えている。入院後も連絡を取り合い情報交換し、早期に退院できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に看取りの方針を説明している。診察に付き添いし重度化した場合は本人、家族に事業所でできる事を説明している。看取りを希望されれば、併設の病院と連携し対応している。	2階ユニットと同じ	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを掲示している。法人内の医療安全委員会に参加し、応急救護の勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を行っている。防災マニュアルを作成し、地域の区長や消防団と連絡がとれるようにしている。	2階ユニットと同じ	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	申し送り等利用者の事を話す時には名前を出さず部屋番号を使用し、プライバシーに配慮している。否定的な言葉は使わないようにし、言葉遣いが気になる時には声職員同士声を掛け合う。	2階ユニットと同じ	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるよう声のかけ方など工夫し一人一人の性格を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴等本人が希望する時間に対応したり、談話時間、軽作業、レクリエーションなど個人に合わせ支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時には何を着るか、利用者に決めてもらえるよう支援する。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に食べたい物が無いのか聞き献立にいれたりし、一緒に作っている。盛り付けや片付けも利用者と一緒にしている。毎月の月初めは誕生日会、毎週水曜日はホットプレートなど使い、目の前で調理し利用者が楽しめるような献立にしている。	2階ユニットと同じ	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月体重測定し、食事の量や献立など管理栄養士に相談している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	磨き残しがある方は介助に入ったり、声かけしながら歯磨きしている。状態に合わせてスポンジブラシや舌苔ブラシ使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の残存機能を活かした支援を行っている。排泄パターンを把握しそれに合わせてトイレ誘導を行うようにしている。	2階ユニットと同じ	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便を把握をし、毎日15時のお茶の時間にはヨーグルトを出している水分も多くとれる様促している。チューブ体操やラジオ体操、散歩など運動する機会を作っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	声かけにて入浴を希望される時に入浴して頂いている。また週3回希望される方などには入浴できるよう対応している。	2階ユニットと同じ	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の体調に合わせ、休息していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人薬剤情報をカルテにファイルしている。定期の診察には職員が付き添い、内服の変更があった場合は必ず申し送りを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌が好きな方には好きな人同士と一緒に歌う時間を作っている。屋内でできる行事を増やしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に沿って、戸外に散歩行けるよう努めている。普段は行けないような場所へはコロナウィルス感染予防のため、行けていない。	2階ユニットと同じ	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を持っておられる方はいませんが、本人が買い物したい時は預かっているお金が使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい方はその都度対応している。携帯電話を持っている方もいるため、電話がかかってきた時には出られるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節がわかるように旬の物で献立を作ったり、掲示物を作っている。	2階ユニットと同じ	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士で家事作業や軽作業ができるよう支援している。一人で過ごしたい利用者もいるので、個人に合わせて居場所づくりをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室では使い慣れた物を持ってきていただくよう家族にも声かけている。家族の写真や、好きな物を持参して頂いている。	2階ユニットと同じ	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、浴室などには手すりが設置されている。廊下の距離があるため途中で休めるように椅子を置いている。居室には表札を掲示し自分の居室がわかるようにしている。		